

1. 京丹後市の取組

本年3月にセーフコミュニティ概念を生かした地域づくりに向け、職員研修を実施した京丹後市で着々と活動が促進されつつあります。

今回は、民間活力も導入し、府警察や府立高等学校と協働した地域ぐるみの活動を紹介します。

次世代の地域づくり人材育成

人の尊厳を守る規範意識を身に付け、交通事故防止の地域リーダーとしての素養を育成する府立峰山高等学校と網野高等学校が、1年のスパンで実施する取組

府立峰山高等学校

時速40kmでの衝突



生徒の交通安全宣言

スケアード・ストレイト

H24.7.17(火)

府立峰山高等学校第1学年生徒

- ①スタントマンによる実際の自転車交通死亡事故再現
自動車と自転車、自転車同士、自転車と歩行者の事故再現から、どうすれば事故が防げたかを学習
- ②京丹後警察署の交通安全教室
交通安全規範をクイズ形式で学習
- ③学習の振り返りとして感想文作成

府立網野高等学校

H24.9.5(水)～6(木)予定

【文化祭展示】

スケアード・ストレイトで学んだ事故から規範意識を向上させ、更に実際の被害者の思いを感じ、自他の尊厳を守る規範意識醸成、地域のルール遵守のリーダーを育成

ミニ・生命のメッセージ展



(展示イメージ)

メッセージャー(人型)に被害者の写真と思いを書いたパネルを貼付け、足下に遺品を展示

H24.9.2(日)～4(火)予定

【文化祭展示】

何が被害者を生み出したのか？
人として、他者の尊厳を尊重する重要な方法は何か？
規範意識の大切さを学び、11月の講習会で新たな自覚を養成

府立網野高等学校

自転車安全利用推進員講習会

H24.11.7(水)予定

京都府自転車の安全な利用の促進に関する条例に規定する講習会を実施、希望者は京都府知事から府交通安全活動の促進を図るボランティアである「自転車安全利用推進員」に委嘱される。

●今日改めて学べたこと。それは「事故というものは、いつ、どこでも起きる可能性を秘めている」ということでした。今回、スケアードストレートというものを初めて見せてもらい、今までの交通安全教室とは違う空間に引き込まれました。いつもの教室は、話を聞いたり、何人かが正しい自転車の乗り方をするだけの表面上のものでした。だから、正直言って、自分に置き換えて考えたり、深く自分の中に入ってこなかったのが事実です。でも、今日のは違いました。スタントマンが実際に起こりそうな事故、誰にでも起こり得る事故をしてくれたので、自分の日常生活の問題として考えることが出来ました。「交通ルールを守る」、口だけでは何とでも言えます。だけど急ぐときなど、自転車でも自動車でもスピードを出してしまうことがあります。その時に事故が起こるんだと思います。だから、そういう小さなことを心がけていけば、事故はなくなるのではないかと思いました。今日学んだことを生かして、日々の生活を送っていきたいなと思いました。

●今回のスケアードストレートで改めて交通事故の恐ろしさを知ることができました。内容は色々あって、ケータイ、2人乗り、音楽を聞きながらなど、その他にも多くのことがありました。それを身体を張ってまでスタントマンのみなさんが再現していただいたことは、とても感謝しています。その他のルールの話では、自分が知っていると思っていたルールでも、実は違って、改めて学ぶことが出来ました。僕も今回の学習を通して、これから夏休みで交通量も多くなるので、気をつけて自転車に乗ろうと思いました。

●最初の事故の再現から強い衝撃を受けた。そして、背筋が寒くなった。今日の再現を見るまで、自転車の事故を軽く見ていたけど、この交通安全教室を受けて、今までの自分の交通マナーを見直さなければいけないと思った。事故というものを目の当たりしたことがなくて、危ないという感覚がふわふわしたものでしかなかったけれど、今回、本当に自分が意識を持たなければ危ないと思った。自転車通学だし、今日学んだことをしっかりと生かして通学したいと思う。事故が起こった後では遅いし、後の後悔をしないよう、行動したい。

●初めてスケアードストレートというもの見たけど、思った以上に怖くて、実際に車と自転車がぶつかる瞬間とか、分かっているけど怖かった。これが本当の事故だったら、もっと予測できないし、もっとひどいことが起こるかもしれないと思うと、しっかり、ルールを守って自転車に乗りたいと思った。今まで、傘さし運転とかしたことがあったけど、今日のをみて、もう絶対にやめようと思った。自転車側が被害者ばかりじゃなくて、加害者になることもあるというのが一番印象的だった。自分のせいで誰かがケガをしたり、亡くなったりしたら本当に償いきれないし、そういう事故が起きてから気付くんじゃ遅いと思った。だから、事故を起こす前に、今日、いろんなことが学べてよかった。

●今回、スケアードストレートを終えて、目の前でスタントマンが事故を再現しているのを見て、とても恐ろしいなと思いました。もし、自分がその立場だったら…と思うと、死んでしまいそうと思いました。事故を防ぐために交通ルールがあるから、しっかり守ってこれから生活していかなければならないと思いました。今日のことは、とてもためになったし、ちゃんと学習できてよかったなと思いました。最後の〇×クイズで少し間違っ覚えていた所もたくさんあるので、改めてしっかり覚えていこうと思ったし、自分自身を守るのは、自分しかいないと思うから、ちゃんと自分のことは自分で守っていきたいです。

●40kmで走っている車が人形をひいてしまうのを見て、恐怖を感じました。いつも車に乗って走っている40kmの速さの感じとは違って、私には速く走っているように見えました。交通事故は怖いものだ改めて思いました。いつ自分が事故にあうかも知れないと考えると、自転車に乗るのが怖くなりました。また、自分が少しでもルールを破ってしまうと、別の人にケガをさせたり、自分や相手の家族を傷つけてしまうことも分かりました。まずは自分がしっかりとルールを守り、正しく自転車に乗ったりしようと思いました。そして車に乗るようになって、同じように正しく安全に乗り、そして周りの人にも教えていこうと思います。

●今日は交通安全教室でした。スタントマンの人たちがいろんな事故現場の様子を再現してくれました。自転車と車や、歩行者と自転車とか、いろいろな事故がありました。あの中に、私がいつも自転車に乗っているときにやっていることが何個かありました。私はまだ大きな事故はしたことがないけど、あんなに危ないだなと思いました。事故なんてしないと思って油断していたら、本当にあんな感じで事故になるかもしれないから、これから気をつけないといけないと思いました。

●今日の交通安全教室で交通マナーについて改めて考えさせられた。スタントマンの方に実演してもらうことで、事故の衝撃がよくわかった。特に最初に行われた40km/hの自転車との事故のものは40km/hという速度、ぶつかったときの様子、事故後の自転車の様子、全て自分が思っていたものとはまったく違った。そして自分自身が、これらに対し、今まで過小評価していたのか分かった。今日の学習で交通マナーの重要性を再認識させられた。また、これから一つ一つの注意すべきことをしっかりと再認識していくようにしようと思う。

●今日は、スタントマンさんたちが、事故現場を再現してくださいました。身体が投げ出されたり、車のフロントガラスが割れたりして、事故の怖さを痛感しました。特に最後の事故は、スタントマンさんが最初起き上がらなくて、本当の事故になったのかと思いました。でも、私たち自身の身の回りで、そうなる危険性があると気づいて、本当に怖かったです。私は赤信号だけど、車が来ないし、いいかと思って渡ってしまうこともあります。でもそれが今日は無事でも、明日の事故につながるかもしれません。だから、焦らなくてもいいように、早めに家を出たりして余裕を持って安全に自転車に乗れるようにしたいです。

2. 亀岡市のセーフコミュニティ再認証への支援

平成25年にセーフコミュニティ再認証を目指す亀岡市では、5月にチョウ・ジュンピル(韓国)、ル・パイ(台湾)先生によるプレ審査がありました。

両先生は、安心・安全なまちづくりのために、活発な活動を推進する住民支援である、京都府施策「ヒヤリ・ハット情報」活用推進システムによる住民活動等を視察されました。



「並河駅前交番ステーション」で活動する地域住民の方々を先頭に、住民の身近な課題に対応するため、京都府の「ヒヤリハット情報」活用推進システムを用いた活動を実践。

京都府職員やセーフコミュニティ認証を目指す他市町の職員も同行する中で、地域住民の説明に熱心に耳を傾け、時に、システム操作も交え予定の視察を終了しました。



すべての日程終了後、先生方は、京都府立南丹高等学校へ…
学校に到着すると、生徒たちが熱烈な歓迎をしてくれました。

この日は、セーフスクールに興味のある生徒たちが、セーフスクールとは何か？
について、先生方と、気さくにワークショップを実施しました。

両先生も、地域の若者たちの質問に答えつつ、生徒たちへの質問もしながら、
1時間以上、熱のこもった議論をしました。

今後は、10月26日～27日の本審査に向け、亀岡市の
活動内容の充実への期待が大きくなります。